

2015年度

論文

1. Machery, E., Stich, S., Rose, D., Chatterjee, A., Karasawa, K., Struchiner, N., Sirker, S., Usui, N., & Hashimoto, T. (2015). Gettier across cultures. *Nous*. doi: 10.1111/nous.12110
2. 白岩祐子・唐沢かおり (2015). 量刑判断に対する増進・抑制効果の検討：被害者への同情と裁判に対する規範的なイメージに着目して 感情心理学研究, 22, 110–117. doi: 10.4092/jsre.22.110
3. 大高瑞郁・唐沢かおり (2015). 成人形成期の子どもへの父親に対する態度を規程する要因：父親からの行動に関する子どもの認知に着目して 社会心理学研究, 31, 89–100. doi: 10.14966/jssp.31.2_89
4. 渡辺匠・太田紘史・唐沢かおり (2015). 自由意志信念に関する実証研究のこれまでとこれから：哲学理論と実験哲学、社会心理学からの知見 社会心理学研究, 31, 56–69. doi: 10.14966/jssp.31.1_56
5. Watanabe, T., Sakurai, R., & Karasawa, K. (2015). Free will beliefs and moral responsibility: Disbelief in free will leads to less responsibility for third person's crime. *Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences 2015 Official Conference Proceedings*, 423–431. doi: 10.1073/pnas.1702119114

学会

1. 唐沢かおり (2015). 心の知覚と道徳的判断について 「ワークショップ：道徳心理と社会的認知」 日本科学哲学会第48回大会 首都大学東京, 11月22日. 話題提供.
2. 戸田山和久・山口裕幸・唐沢かおり (2015). 心理尺度と操作的定義を反省する 科学基礎論学会, 北海道教育大学札幌校, 6月14日, 口頭
3. 唐沢かおり (2015). フツウの人たちに聞いたことから概念を構築することについて：概念工学に向けて 「ワークショップ：実験哲学と概念工学」 応用哲学会第7回年次大会, 東北大学, 4月25日 企画・話題提供.
4. 二木望・唐沢かおり (2015). 心理的本質主義がジェンダーシステム正当性認知に及ぼす影響 日本社会心理学会第56回大会, 東京女子大学, 11月1日, ポスター
5. 二木望 (2015). 生物学的本質主義が人間らしさの知覚に及ぼす影響 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場, 9月22日, ポスター
6. 橋本剛明 (2015). 社会的侵害場面における制裁・許しの規定因としての勢力感の検討 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場, 9月24日, 小講演
7. 橋本剛明・唐沢かおり (2015). 特性的な勢力感が制裁と寛容に与える影響 日本社会心理学会第56回大会, 東京女子大学, 10月31日, ポスター

8. 伊藤健彦・唐沢 かおり (2015). 企業の大学びいきが不採用時の原因帰属に与える影響 日本社会心理学会第 56 回大会, 東京女子大学, 10 月 31 日, 口頭
9. 伊藤 健彦・唐沢 かおり (2015). 就職活動における企業の大学びいきが不採用の原因帰属に与える影響: 日本と米国の学生を対象として 日本グループ・ダイナミックス学会第 62 回大会, 奈良大学, 10 月 11 日, ポスター
10. 伊藤健彦 (2015). 就職活動における企業の大学びいきが嫉妬感情に与える影響 日本心理学会第 79 回大会, 名古屋国際会議場, 9 月 23 日, ポスター
11. Ito, T., & Karasawa, K. (2015). The Effects of Company's University Favoritism on Causal Attribution and Social Consequences. 11th Biennial Conference of Asian Association of Social Psychology, Cebu City, Philippines, August 21, poster
12. 笠原伊織・宇佐美まゆみ (2015). ステレオタイプのプライミングが言語行動に及ぼす影響: コミュニケーション場面を対象に 日本心理学会第 79 回大会, 名古屋国際会議場, 9 月 22 日, ポスター
13. 松本龍児・渡辺匠・唐沢かおり (2015). 自己と他者についての自由意志信念が援助意図に与える影響 日本社会心理学会第 56 回大会, 東京女子大学, 11 月 1 日, ポスター
14. 松本龍児・渡辺匠・唐沢かおり (2015). 自由意志信念が福祉政策への賛意に与える影響 日本グループ・ダイナミックス学会第 62 回大会, 奈良大学, 10 月 11 日, ポスター
15. 櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2015). 既達成の目標によるセルフ・ライセンシング: 社会的排斥時における自己制御過程に着目して 日本社会心理学会第 56 回大会, 東京女子大学, 10 月 31 日, ポスター
16. 谷辺哲史・橋本剛明・唐沢かおり (2015). 非生物に対する心の知覚と道徳的態度の関連 日本社会心理学会第 56 回大会, 東京女子大学, 10 月 31 日, ポスター
17. 谷辺哲史・白岩祐子・唐沢かおり (2015). 裁判員制度の目的を知ることが制度への態度に与える影響 日本グループ・ダイナミックス学会第 62 回大会, 奈良大学, 10 月 12 日, 口頭

2014年度

著書・分担執筆

1. 唐沢かおり・林徹（編著）（2014）『人文知 I 心と言葉の迷宮』 東京大学出版会
2. 唐沢かおり（編著）（2014）『新社会心理学—心と社会をつなぐ知の統合—』 北大路書房

論文

1. Hashimoto, T., & Karasawa, K. (2014). Science, so close and yet so far away: How people view science, science subjects and scientists. In Y.Suzuki & M. Hagiya (Eds.), *Recent Advances in Natural Computing*. Tokyo, Japan: Springer. pp.57-67.
2. 伊藤健彦・唐沢かおり (2014). 就職活動における集団間の不公平が不公平是正政策への支持的態度や企業への因推論に与える影響：獲得的地位に基づく不公平に注目して 産業・組織心理学研究, 27, 117-127.
3. 松本 龍児・櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2014). 自由意志信念が対人相互作用場面での攻撃行動に与える影響 人間環境学研究, 12, 113-117.
4. 白岩祐子・唐沢かおり (2014). 犯罪被害者の裁判関与が司法への信頼に与える効果：手続き的公正の観点から 心理学研究, 85, 20-28.
5. 白岩祐子・松本龍児・内堀大成・唐沢かおり (2014). 裁判シナリオにおける非対称な認知：規定因と帰結の検討 人間環境学研究, 12, 11-16.
6. Sakurai, R., Karasawa, K., & Watanabe, T. (2014). Unconscious goal activation occupies executive functions: Subliminal priming of the graphic stimulus. *Proceedings of International Conference on Education, Psychology and Society*, 167-174.
7. 渡辺匠・唐沢かおり (2014). 死の脅威による人間の社会的行動の変化：集団への帰属意識を題材として 死生学・応用倫理研究, 19, 168-184.
8. 渡辺匠・櫻井良祐・綿村英一郎・唐沢かおり (2014). 自由意志・決定論尺度 (The Free Will and Determinism Plus Scale; FAD+) 日本語版の作成 パーソナリティ研究, 23, 53-56.

学会

1. 唐沢かおり (2014). 産業・組織心理学のアイデンティティ、可能性、社会貢献：社会的認知の観点から 「産業・組織心理学 30 周年記念シンポジウム：産業・組織心理学のアイデンティティ、可能性、社会貢献：他の心理学領域の観点から」 産業・組織心理学会第 30 回大会, 北海学園大学, 9 月 13 日. 招待講演.

2. 唐沢かおり (2014). 道徳的判断の測定とその問題—過程分離手続きを用いて— 「ワークショップ 社会的判断：測定の問題と現象論」 第 61 回日本グループ・ダイナミクス学会, 東洋大学, 9月6日. 話題提供.
3. 唐沢かおり (2014). 自由意志信念と決定論的信念をめぐって 「ワークショップ 自由意志信念と決定論的信念をめぐって」 日本心理学会第 55 回大会, 北海道大学, 7月26日, 企画・話題提供
4. Futaki, N., Watanabe, T., Sakurai, R., & Karasawa, K. (2015). Entitativity and ageism: When do we help or neglect elderly people? The 16th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, Long Beach, California, February 27, poster
5. Futaki, N., & Karasawa, K. (2015). The relationship between essentialism and gender-specific system justification: The effect of the sense of personal control. Common-Sense Beliefs and Lay Theories Pre-Conference (The 16th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology), February 26, Long Beach, California, Poster
6. 二木 望・櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2014). 実体性が両面価値的な集団への態度に及ぼす影響について 日本社会心理学会第 55 回大会, 北海道大学, 7月26日, 口頭
7. Hashimoto, T., & Karasawa, K. (2015). How perceived control and justice beliefs affect one's forgiveness toward an unjust other. The 16th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, Long Beach, California, February 28, poster
8. 橋本 剛明・唐沢 かおり (2014). 不公正へのコントロール知覚と公正世界信念が謝罪への反応に与える影響 日本グループ・ダイナミクス学会第 61 回大会, 東洋大学, 9月6日, ポスター
9. 橋本 剛明・唐沢 かおり (2014). 勢力感が制裁反応に与える影響：カラシ入りシュークリームを用いた検討 日本社会心理学会第 55 回大会, 北海道大学, 7月26日, 口頭
10. 小林 麻衣子・白岩 祐子・唐沢 かおり・松井 豊 (2014). 犯罪被害者遺族の視点から見た有用なサポート 日本社会心理学会第 55 回大会, 北海道大学, 7月26日, ポスター
11. Matsumoto, R., Sakurai, R., Watanabe, T., & Karasawa, K. (2015). The effects of belief in free will on retaliatory aggression. The 16th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, Long Beach, California, February 26, poster
12. Matsumoto, R., Sakurai, R., Watanabe, T., & Karasawa, K. (2015). Do belief in free will always restrain aggression? (Common-Sense Beliefs and Lay Theories Pre-Conference) The 16th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology), LongBeach, California, February 26, poster
13. 松本 龍児・唐沢 かおり (2014). 自由意志信念の社会的機能 科学基礎論学会秋の研究例会ワークショップ『自由意志と道徳的責任を帰属する心理』, 東京大学, 11月1日, 口頭

14. 松本 龍児・櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2014). 自己と他者に関する自由意志信念が攻撃行動に与える影響 日本グループ・ダイナミックス学会第61回大会, 東洋大学, 9月6日, 口頭
15. 松本 龍児・櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2014). 自由意志信念が制裁・報復としての攻撃に与える影響 日本社会心理学会第55回大会, 北海道大学, 7月26日, 口頭
16. 岡田 真波・唐沢 かおり (2014). 制御焦点の活性化が存在脅威管理に及ぼす効果の検討 日本グループ・ダイナミックス学会第61回大会, 東洋大学, 9月6日, 口頭
17. Sakurai, R., Watanabe, T., & Karasawa, K. (2015). Fulfilled goal as license to indulge: The effects of ego depletion and recalling past goal achievement on self-regulation. The 16th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, Long Beach, California, February 28, poster
18. 櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2014). 実行意図の形成が制御資源の節約に与える影響 日本心理学会第78回大会, 同志社大学, 9月12日, ポスター
19. 櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2014). 既達成の目標が果たすライセンス機能: 自我枯渇時における自己制御過程に着目して 日本グループ・ダイナミックス学会第61回大会, 東洋大学, 9月6日, ポスター
20. 櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2014). 実際の自我枯渇と自我枯渇の認知が制御資源の節約に与える影響 日本社会心理学会第55回大会, 北海道大学, 7月27日, ポスター
21. Sakurai, R., Watanabe, T., & Karasawa, K. (2014). The effects of perceived versus actual ego depletion on conserving regulatory resources. The 5th Asian Conference on the Social Sciences, Osaka, Japan, June 14, poster
22. Sakurai, R., Watanabe, T., & Karasawa, K. (2014). Resource allocation in goal competition: Does an unattainable goal conserve self-control strength? The 2nd International Conference on Social Science and Management, Kyoto, Japan, May 9, poster
23. Sakurai, R., Watanabe, T., & Karasawa, K. (2014). Unconscious goal activation occupies executive functions: Subliminal priming of the graphic stimulus. International Conference on Education, Psychology and Society, Bangkok, Thailand, April 11, poster
24. 白岩祐子 「犯罪被害者のための刑事司法制度: これまでの経緯と現状・今後の課題」 社会心理学研究会, 筑波大学, 2014年11月22日, 口頭
25. 白岩祐子 「犯罪被害者のための正義: 新しい司法制度の効果測定」 第167回社会行動研究会, 東洋大学, 2014年10月25日, 口頭
26. 白岩祐子 (2014). 裁判員の量刑判断プロセス: 被害者の発言に対する非対称な認知の観点から 日本心理学会第78回大会, 同志社大学, 9月10日, 小講演

27. 白岩 祐子・唐沢 かおり (2014). 被害者の裁判参加が厳罰をもたらすとき：理性的な裁判イメージによる調整効果の検討 日本グループ・ダイナミックス学会第 61 回大会, 東洋大学, 9 月 6 日, 口頭
28. 白岩 祐子・唐沢 かおり (2014). 量刑判断に対する抑制効果の検討：「理性的」な裁判イメージと「感情的」な被害者イメージに着目して 日本社会心理学会第 55 回大会, 北海道大学, 7 月 27 日, ポスター
29. 武井 恵亮・唐沢 かおり (2014). 道徳的自己スキーマと制御焦点が道徳的行動意図に与える効果 日本グループ・ダイナミックス学会第 61 回大会, 東洋大学, 9 月 6 日, ポスター
30. Watanabe, T., & Karasawa, K. (2015). The association between free will beliefs and stereotypes: People's belief in fatalism promotes gender stereotypes. The 5th Asian Conference on Ethics, Religion and Philosophy, Osaka, Japan, March 28, poster
31. Watanabe, T., Sakurai, R., & Karasawa, K. (2015). Free will beliefs and moral responsibility: Disbelief in free will leads to less responsibility for third person's crime. The 5th Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences, Osaka, Japan, March 27, poster
32. 渡辺匠・唐沢かおり (2014). 自由意志信念の測定の問題 科学基礎論学会秋の研究例会ワークショップ『自由意志と道徳的責任を帰属する心理』, 東京大学, 11 月 1 日, 口頭
33. 渡辺匠・唐沢かおり 「自由意志信念とステレオタイプの関連：運命論の考えはステレオタイプを助長する」 日本パーソナリティ心理学会第 23 回大会, 山梨大学, 2014 年 10 月 4 日, ポスター
34. 渡辺 匠・櫻井 良祐・綿村 英一郎・唐沢 かおり (2014). 自由意志信念は自己コントロールを維持できるのか? 日本心理学会第 78 回大会, 同志社大学, 9 月 10 日, ポスター
35. 渡辺匠 (2014). 自由意志・決定論信念がもたらすインパクト 日本社会心理学会第 55 回大会ワークショップ『自由意志信念と決定論的信念をめぐって』北海道大学, 7 月 26 日, 話題提供
36. 渡辺匠・櫻井良祐・綿村英一郎・唐沢 かおり (2014). 自由意志信念が精神状態におよぼす肯定的効果 日本社会心理学会第 55 回大会, 北海道大学, 7 月 26 日, ポスター
37. Watanabe, T., Sakurai, R., & Karasawa, K. (2014). The effects of free will beliefs in Japan: Disbelief in free will impairs overriding impulsive decisions. 22nd International Congress of Cross-Cultural Psychology, Reims, France, July 17, poster
38. Watanabe, T., Sakurai, R., & Karasawa, K. (2014). Determined to look cool: Disbelief in free will increases socially desirable responding. 28th International Congress of Applied Psychology, Paris, France, July 11, poster

2013年度

著書・分担執筆

1. 唐沢かおり (2013) 認知から感情へ 日本認知心理学会編 認知心理学ハンドブック pp.278-279. 有斐閣

論文

1. 小林麻衣子・白岩祐子・武るり子・守屋典子・山田裕子・佐伯昌彦 (2013). 少年審判における検察官関与と被害者質問の導入：その必要性和帰結をめぐる議論 法と心理, 13, 56-60.
2. 伊藤健彦 (2013). 日本の高校生の英語コミュニケーション行動を予測する心理的過程 心理学研究, 84, 488-497.
3. 伊藤健彦・唐沢かおり (2013). 日本の非就業状態にある人に対する原因帰属と雇用格差是正動機の関係：不平等帰属に注目して 人間環境学研究, 11, 125-131.
4. 白岩祐子・唐沢かおり (2013). 被害者参加人の発言および被害者参加制度への態度が量刑判断に与える影響 実験社会心理学研究, 53, 12-21.
5. 渡辺匠・唐沢かおり (2013). 共通語と大阪方言に対する顕在的・潜在的態度の検討 心理学研究, 84, 20-27.
6. 渡辺匠・岡田真波・酒井真帆・池谷光司・唐沢かおり (2013). 自由意志信念に応じた帰属プロセスの変容 人間環境学研究, 11, 59-65.
7. Karasawa K., & Todayama, K. (2013) The social aspects of science communication in the books for general audience after Fukushima Daiichi nuclear disaster. *Journal of Human Environmental Studies*, 11, 117-123
8. Todayama K., & Karasawa, K. (2013) How radiation and its effect were explained?: Science communication after the Fukushima Daiichi nuclear disaster. *International Journal of Knowledge and Web Intelligence*, 4, 336-348

翻訳

1. 白岩祐子 (2013). 第6章「帰属過程」 宮本聡介・唐沢穰・小林知博・原奈津子編訳 社会的認知研究：脳から文化まで 北大路書房 pp.148-178. (Fiske, S. T., & Taylor, S. E. (2008). *Social Cognition: From brains to culture*. Thousand Oaks, CA: Sage.)

報告書

1. 白岩祐子 (2013). 「医療機関で生じた不測の事態に対する保護者の反応：場

面想定法を用いて」 公益財団法人日本医療機能評価機構・産科医療補償制度運営委員会

学会

1. Karasawa, K. (2013). How can social psychology approach to group-level phenomena? Taiwan-Japan workshop on computing aesthetics, National Taiwan Normal University, 7, October.
2. 唐沢かおり(2013). 社会的認知の観点から 「シンポジウム グループ・ダイナミックス：その成果とこれからの課題」 日本グループ・ダイナミックス学会第60回大会, 北西学園大学, 7月14日, 招待講演
3. Karasawa, K., & Todayama, K. (2013). Scientific and technical communication and the Fukushima Daiichi nuclear disaster: The social dimension. “In Workshop Knowledge media for creativity and social Communication” 6th International Conference on Intelligent Interactive Multimedia Systems and Services, Sesimbra, Portugal, Jun, 28. Oral presentation.
4. Todayama, K., & Karasawa, K. (2013). Scientific and technical communication since the Fukushima Daiichi nuclear disaster: How is scientific knowledge disseminated? In Workshop Knowledge media for creativity and social Communication” 6th International Conference on Intelligent Interactive Multimedia Systems and Services, Sesimbra, Portugal, Jun, 28. Oral presentation.
5. Hashimoto, T., & Karasawa, K. (2014). The relationship between just world beliefs and moral decision making. Cross-Cultural Perspectives on Moral Psychology, Korea University, Seoul, South Korea, March 21, ポスター
6. 橋本 剛明・二木 望・唐沢 かおり (2013). 不公正への介入機会が被害者蔑視に及ぼす調整効果 日本社会心理学会第54回大会, 沖縄国際大学, 11月3日, 口頭
7. 橋本 剛明・唐沢 かおり (2013). 集団謝罪にともなう寛容の規定因：不祥事企業に対する影響力要因のさらなる検討 日本グループダイナミックス学会第60回大会, 北星学園大学, 7月14日, 口頭
8. 伊藤健彦・唐沢かおり (2013). 就職活動の大学間不公平が企業への原因推論に与える影響 産業・組織心理学会第29回大会, 京都橘大学, 9月8日, 口頭
9. Ito, T. (2013). The development of motivational factors influencing English communication behavior. The 52th Commemorative International Convention of the Japan Association of College English Teachers, Kyoto, Japan, August 31, oral.
10. 伊藤健彦 (2013). 英語コミュニケーション行動尺度と外部基準指標との関連性 日本教育心理学会第55回総会, 法政大学, 8月17日, 口頭

11. 伊藤 健彦・唐沢 かおり (2013). The influence of intergroup inequity on supportive attitudes towards inequity policies in job-hunting: Focusing on the inequity based on achieved status 日本グループダイナミックス学会第60回大会, 北星学園大学, 7月15日, 英語口頭
12. Jung, K. H., & Karasawa, K. (2014). Subjective happiness decreases schadenfreude toward both high and average achievers. Cross-Cultural Perspectives on Moral Psychology, Seoul, South Korea, March 21, poster
13. Jung, K. H., & Karasawa, K. (2014). Happy people do not enjoy another's unhappiness "Happiness decreases schadenfreude" The 15th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, Austin, Texas, February 15, poster
14. 鄭珪熙・唐沢 かおり (2013). 主観的幸福感がシャードンフロイデの減少に及ぼす影響 日本社会心理学会第54回大会, 沖縄国際大学, 11月3日, ポスター
15. 鄭珪熙・唐沢 かおり (2013). The influence of recognizing empathic concern and schadenfreude on person perception 日本グループ・ダイナミックス学会第60回大会, 北星学園大学, 7月15日, 英語口頭
16. Sakurai, R., Watanabe, T., & Karasawa, K. (2014). Unconscious conservation of regulatory resources. The 4th Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences, Osaka, Japan, March 29, poster
17. Sakurai, R., Watanabe, T., & Karasawa, K. (2014). The effect of competing goal attainability on focal goal pursuit. The 15th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, Austin, Texas, February 15, poster
18. Sakurai, R., Watanabe, T., & Karasawa, K. (2014). Revisiting the conservation of regulatory resources from motivational intensity theory. (Self-Regulation Pre-Conference) The 15th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, Austin, Texas, February 13, poster
19. 櫻井良祐・渡辺匠・唐沢かおり (2013). 目標の非意識的な活性化による実行機能の占有 日本ワーキングメモリ学会第11回大会, 京都大学, 11月30日, 口頭
20. 櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2013). 競合目標の達成可能性が焦点目標の遂行に与える影響 日本社会心理学会第54回大会, 沖縄国際大学, 11月2日, 口頭
21. 櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2013). 人々の自由意志信念とその社会的機能の再検証: 自由意志とは何であり、何をもたらすのか? 自由意志の認知ワークショップ, 東京大学, 10月26日, 口頭
22. Sakurai, R., Watanabe., T., & Karasawa, K. (2013). Does Unconsciously Activated Goal Conserve Mental Resources? Korean Psychological Association Annual Conference, Daejeon, Korea, August 23.
23. Sakurai, R., Watanabe., T., & Karasawa, K. (2013). Effects of Unconsciously Activated Competing Goal and Its Attainment on Focal

- Goal Pursuit. The 5th Asian Congress of Health Psychology, Daejeon, Korea, August 23.
24. 櫻井 良祐・渡辺 匠・唐沢 かおり (2013). 競合目標の非意識的な活性化とその達成が焦点目標の遂行に与える影響 日本グループ・ダイナミックス学会第60回大会, 北星学園大学, 7月15日, ポスター
 25. 白岩 祐子・唐沢 かおり (2013). 医療機関による説明のあり方が患者の医療評価に及ぼす効果 日本社会心理学会第54回大会, 沖縄国際大学, 11月3日, 口頭
 26. 白岩 祐子・唐沢 かおり (2013). 共感しているのになぜ支援しないのか? : 「加害者を赦さない遺族」に対する赦しの効用的価値観の効果 日本グループ・ダイナミックス学会第60回大会, 北星学園大学, 7月14日, ポスター
 27. 武井 恵亮・唐沢 かおり (2013). 内集団肯定化が内集団人間化に与える影響の検討 日本グループ・ダイナミックス学会第60回大会, 北星学園大学, 7月14日, ポスター
 28. 綿村 英一郎・渡辺 匠・唐沢 かおり (2013). 人は不祥事の責任をどう考えるか? : 責任の対象と種類による分析 日本社会心理学会第54回大会, 沖縄国際大学, 11月3日, 口頭
 29. 渡辺 匠・岡田 真波・酒井 真帆・池谷 光司・唐沢 かおり (2013). 自由意志信念に応じた帰属プロセスの変容 日本社会心理学会第54回大会, 沖縄国際大学, 11月3日, ポスター
 30. 渡辺 匠・大山 拓・唐沢 かおり (2013). 自由意志の信念がもたらす存在脅威管理機能: 「意志の力」は死の脅威を低減できるのか? 日本グループ・ダイナミックス学会第60回大会, 北星学園大学, 7月15日, ポスター
 31. 渡辺 匠・櫻井 良祐・唐沢 かおり 「人々の自由意志信念とその社会的機能の再検証: 自由意志とは何であり、何をもたらすのか?」 自由意志の認知ワークショップ, 東京大学, 2013年10月26日, 口頭
 32. 渡辺匠・櫻井良祐・唐沢かおり (2013). 自由意志信念から援助行動・攻撃行動への影響過程: 自己制御という観点から 日本パーソナリティ心理学会第22回大会, 江戸川大学, 10月12日, ポスター
 33. Watanabe, T., Sakurai, R., Watamura, E., & Karasawa, K. (2013). Benefits of believing in free will on maintaining mental health. 3rd Asia Pacific Rim Counseling and Psychotherapy Conference, Kuching, Malaysia, August 16, poster

2012年度

著書・分担執筆

1. 唐沢かおり・戸田山和久 (2012) 心と社会を科学する 東京大学出版会
2. 唐沢かおり (2012) 感情理論の適用事例 中島義明編 現代心理学事例辞典 pp.196-211. 朝倉書店

論文

1. 荒川歩・白岩祐子・唐沢かおり (2012). 犯罪被害者に対する理解を深めるための教育ゲーム：開発と実践 法と教育, 2, 5-15.
2. Hashimoto, T., & Karasawa, K. (2012). Victim and observer asymmetries in their reactions to an apology: How responsibility attribution and emotional empathy lead to forgiveness. *Japanese Journal of Experimental Social Psychology*, 51, 104-117.
3. 橋本剛明・白岩祐子・唐沢かおり (2012). 経済格差の是正政策に対する人々の賛意：機会の平等性と社会階層の認知が責任帰属に与える影響の検討. *社会心理学研究*, 28, 13-23.
4. Jung, K. H., & Lee, J. H. (2012). Cognitive and emotional correlates of different types of deception. *Social Behavior and Personality: An International Journal*, 40, 575-584.
5. Kim, S. J., Jung, K. H., & Lee, J. H. (2012). Characteristics of alpha power event-related desynchronization in the discrimination of spontaneous deceptive responses. *International Journal of Psychophysiology*, 85, 230-235.
6. 白岩祐子・荻原ゆかり・唐沢かおり (2012). 裁判シナリオにおける非対称な認知の検討：被害者参加制度への態度や量刑判断との関係から *社会心理学研究*, 28, 41-50.
7. 白岩祐子・宮本聡介・唐沢かおり (2012). 犯罪被害者に対するネガティブな帰属ラベルの検討：被害者は“責任”を付与されるのか *社会心理学研究*, 27, 109-117.
8. 渡辺匠・唐沢かおり (2012). 自己脅威が内集団との合意性認知に及ぼす効果 *社会心理学研究*, 27, 83-92.
9. Watanabe, T., & Karasawa, K. (2012). Self-ingroup overlap in the face of mortality salience. *The Japanese Journal of Experimental Social Psychology*, 52, 25-34.

報告書

1. 諸澤英道・白岩祐子・小林麻衣子・唐沢かおり (2012). 「刑事裁判への関与が犯罪被害者 遺族の満足度と司法に対する信頼に与える影響：結果とプロセスの満足度に着目して」 財団法人社会安全研究財団

学会

1. 唐沢かおり (2012). 実験哲学と社会心理学 「ワークショップ 実験哲学への招待：哲学と社会心理学の実りあるコラボレーションに向けて」 日本グループ・ダイナミックス学会第 59 回大会, 京都大学, 9 月 22 日, 企画・話題提供
2. 唐沢かおり (2012). フォークサイコロジー問題とピースミール問題 「ワークショップ 社会心理学に絡みつく「甘い誘惑」について考えるー科学哲学者との対話と討論」 日本グループ・ダイナミックス学会第 59 回大会, 京都大学, 9 月 22 日, 話題提供
3. Karaswa, K., Todayama, K., & Deguchi, Y. (2012). Methodological Individualism and Folk Psychology in Social Psychology, First Conference on Contemporary Philosophy in East Asia, Academia Sinica, Taipei City, Taiwan, 7, September. Oral presentation.
4. Hashimoto, T., & Karasawa, K. (2013). People's images toward science and technology: Review on empirical findings. 7th international workshop on natural computing, The University of Tokyo, Japan, March 23, 口頭
5. Hashimoto, T., & Karasawa, K., (2013). Role of morality perception in moral typecasting. The 14th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, New Orleans, Louisiana, January 18, ポスター
6. 橋本剛明・唐沢かおり (2012). 制裁動機の規定因の検討：不公正感・是正機会・謝罪 日本社会心理学会 53 回大会, つくば国際会議場, 11 月 18 日, 口頭
7. 橋本剛明・唐沢かおり (2012). なぜ集団による謝罪は「許し」をもたらさないのか：不祥事企業に対する影響力の要因の検討ー 日本グループ・ダイナミックス学会第 59 回大会, 京都大学, 9 月 23 日, ポスター
8. Ito, T., & Karasawa, K. (2013). The effect of causal inference of individual failure on self-esteem in intergroup inequity situation. The 14th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, New Orleans, Louisiana, January 18, poster
9. 伊藤健彦 (2012). 日本の大学生の英語コミュニケーション行動を予測する心理的過程 日本教育心理学会第 54 回総会, 琉球大学, 11 月 23-25, ポスター
10. 伊藤健彦・唐沢かおり (2012). 集団間の不公平が外集団への拒否意図に与える影響 日本社会心理学会 53 回大会, つくば国際会議場, 11 月 18 日, ポスター
11. 伊藤健彦・唐沢かおり (2012). 仮定された結果の原因推論における内集団奉仕的バイアス 日本グループ・ダイナミックス学会第 59 回大会, 京都大学, 9 月 22 日, ポスター
12. 伊藤健彦 (2012). 日本の高校生の英語学習価値モデルの作成 日本心理学会第 76 回大会, 専修大学, 9 月 12 日, ポスター

13. Jung, K. H., & Karasawa, K. (2013). Being the target of schadenfreude and empathic concern: The impact of perceived hostile and prosocial emotion on person perception. The 14th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, New Orleans, Louisiana, January 18, poster
14. 鄭珪熙・唐沢かおり (2012). シャーデンフロイデと共感の認知が対人知覚に及ぼす影響 日本社会心理学会 53 回大会, つくば国際会議場, 11 月 18 日, ポスター
15. 小林麻衣子・白岩祐子 (2012). 大会ミニシンポジウム「少年審判における“検察官関与”と“被害者質問”の導入: その必要性と帰結をめぐる議論」 法と心理学会第 13 回大会, 武蔵野美術大学, 10 月 21 日 (企画)
16. 白岩祐子・唐沢かおり (2012). 刑事裁判への関与が犯罪被害者の裁判・司法観に与える影響 日本社会心理学会 53 回大会, つくば国際会議場, 11 月 18 日, 口頭
17. 白岩祐子・小林麻衣子・唐沢かおり 刑事裁判への関与が犯罪被害者遺族の司法観に与える影響 法と心理学会第 13 回大会, 武蔵野美術大学, 2012 年 10 月 21 日, ポスター
18. 白岩祐子・谷辺哲史・唐沢かおり (2012). 犯罪被害者の発言による量刑判断上の被影響認知プロセス 日本グループ・ダイナミックス学会第 59 回大会, 京都大学, 9 月 23 日, 口頭
19. 白岩祐子・唐沢かおり (2012). 犯罪被害者の発言による量刑判断への影響が否認される過程 日本心理学会第 76 回大会, 専修大学, 9 月 12 日
20. 白岩祐子・荒川歩・唐沢かおり (2012). 被害者の視点取得ゲームの開発と実践 東京大学人文社会系研究科・情報理工学研究科共催ワークショップ: 人と社会のダイナミクス解明に向けて, 東京大学, 4 月 23 日, 口頭
21. Takei, K., & Karasawa, K. (2013). The influence of moral outrage on intentionality judgement. The 14th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, New Orleans, Louisiana, January 18, poster.
22. 武井恵亮・唐沢かおり・橋本剛明 (2012). 道徳判断が副作用の意図性判断に及ぼす影響の検討 日本社会心理学会 53 回大会, つくば国際会議場, 11 月 18 日, 口頭
23. Takeuchi, M., & Karasawa, K. (2013). Implicit and explicit ageism among middle-aged people in Japan. The 14th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, New Orleans, Louisiana, January 18, poster
24. 竹内真純・唐沢かおり・大高瑞郁 (2012). 中年期における、高齢者に対する態度、加齢不安の規定要因 日本社会心理学会 53 回大会, つくば国際会議場, 11 月 18 日, 口頭
25. 渡辺 匠・櫻井 良祐・唐沢 かおり (2013). 人々の自由意志信念に関する実証的検討: 実験哲学および社会心理学の観点から 自由意志概念に関する実験哲学研究会, 東京大学, 3 月 24 日, 口頭

26. 渡辺匠・唐沢かおり (2012). 社会的排斥が自己と内集団の類似性に与える影響 日本社会心理学会 53 回大会, つくば国際会議場, 11 月 18 日, ポスター
27. 渡辺匠 (2012). 自由意志の影響過程: 自己制御という観点から 科学基礎論学会秋の研究例会ワークショップ『実験哲学のなかの認知と認識』, 東京大学, 11 月 3 日, 口頭
28. 渡辺 匠・唐沢 かおり (2012). 内集団への顕在的・潜在的同一視を通じた存在脅威管理方略 日本グループ・ダイナミクス学会第 59 回大会, 京都大学, 9 月 23 日, 口頭
29. 渡辺匠 (2012). 死の脅威管理方略としての顕在的・潜在的な集団同一視 東京大学人文社会系研究科・情報理工学研究科共催ワークショップ: 人と社会のダイナミクス解明に向けて, 東京大学, 4 月 23 日, 口頭
30. 池田真季・村本由紀子・正木郁太郎・品田瑞穂・二木望・岡田真波 (2012). 集団主義は異なる意見を排除するのか: 集団主義が寛容性に与える正の効果 日本社会心理学会第 53 回大会, つくば国際会議場, 11 月 18 日, ポスター

2011年度

著書・分担執筆

1. 白岩祐子 (2011). 性犯罪神話研究の現状と展望 小俣謙二・島田貴仁 (編) 犯罪と市民の心理学：犯罪リスクに社会はどうかかわるか 北大路書房 pp. 99-102.

論文

1. 渡辺匠・唐沢かおり (2011). 潜在的な自己評価と内集団評価の相互関係の検討 人間環境学研究, 9, 35-40.
2. 大高瑞郁・唐沢かおり (2011). 父親との政治的会話と子の内的政治的有効性感覚の関連 山梨学院大学法学論集, 68, 391-411.
3. 尾崎由佳・唐沢かおり (2011). 自己に対する評価と接近回避志向の関係性—制御焦点理論に基づく検討— 心理学研究, 82, 450-458.
4. 渡辺匠・唐沢かおり・大高瑞郁 (2011). 家族介護と公的介護に対する選好度の規定要因および関係性について 実験社会心理学研究, 51, 11-20.
5. 月元 敬・橋本剛明・唐沢かおり (2012). 間接的連想関係による虚記憶：職業ジェンダーを用いた検討— 心理学研究, 82, 49-55.
6. 豊沢純子・唐沢かおり・戸田山和久 (2011). 大学初年時学生の分野別の科学のイメージ：天文学イメージの特異性 科学技術社会論研究, 8, 151-168.

学会

1. 唐沢かおり (2011). 通俗的心理学と社会心理学との生産的なるべき関係 「ワークショップ 「集団錯誤の呪縛」からの解放と、その後—社会心理学方法論の再検討 (7) —」 応用哲学会第3回年次大会, 京都大学, 9月24日 企画・話題提供.
2. Karasawa, K., & Todayama, K. (2011). Should economically privileged elderly persons support the underprivileged people in Japan? The 12th European Congress of Psychology, Istanbul, Turkey, July, 8. Poster presentation.
3. 唐沢かおり (2011). 実験哲学と(社会)心理学 「ワークショップ 実験哲学と心理学のはざま」 哲学会第50回研究発表大会, 東京大学, 12月3日, 話題提供.
4. 荒川歩・白岩祐子 (2011). 被害者の視点から広がる社会への新しいパースペクティブ 日本心理学会第75回大会, 日本大学, 9月15日, ワークショップ
5. Arakawa, A. & Shiraiwa, Y. (2011). "Development of the Educational Game for Victimology (1): Background and Game Content." 16th World Congress International Society for Criminology, Kobe, Japan, 8月7日,

- poster
6. Hashimoto, T., & Karasawa, K. (2012). People's Judgments towards Predicament and Account-giving: Experimental Examination of the Effect of Perceived Influence. The 13th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, San Diego, California, January, 27, poster
 7. 橋本剛明・唐沢かおり (2011). 社会的勢力感が企業の釈明にともなう責任判断に与える影響 日本社会心理学会第 52 回大会, 名古屋大学, 9月18日, ポスター
 8. 橋本剛明・唐沢かおり (2011). 社会的勢力感が謝罪への反応に与える影響: 制裁の動機づけと情報への注意時間の 2 側面からの検討 日本心理学会第 75 回大会, 日本大学, 9月17日, ポスター
 9. Hashimoto, T., & Karasawa, K. (2011). Effectiveness of apology in organizational predicament. Poster presented at the 16th World Congress of the International Society for Criminology, Kobe, Japan, August 6-8.
 10. 池谷光司・唐沢かおり (2011). 情報処理方略への気分の効果に状況因が与える影響 日本社会心理学会第 52 回大会, 名古屋大学, 9月19日, ポスター
 11. Ito, T. & Karasawa, K. (2012). The Influence of the Out-group Threat and In-group Identification on Intergroup Behavior: The Mechanism of Attribution of Failure to Out-Group. The 13th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, San Diego, California, January, 26, poster
 12. 伊藤健彦・唐沢かおり (2011). 外集団脅威が差別感情・行動に与える影響 日本社会心理学会第 52 回大会, 名古屋大学, 9月18日, 口頭
 13. 伊藤健彦 (2011). 日本人の英語コミュニケーション行動を規定する心理的要因の尺度作成 日本心理学会第 75 回大会, 日本大学, 9月16日, ポスター
 14. Ito, T., (2011). The Development of Motivational Factors Influencing English Communication Behavior 日本大学英語教育学会第 50 回大会, 8月30日-9月2日, oral.
 15. Ito, T., & Karasawa, K. (2011). The effect of the out-group threat on intergroup emotion and behavior. 日本グループ・ダイナミクス学会第 58 回大会, 昭和女子大学, 8月23日.
 16. 伊藤健彦 (2011). 日本人の英語コミュニケーション行動を規定する心理的過程モデルの提案 日本教育心理学会第 53 回大会, 北海道立道民活動センター, 7月24日, 口頭
 17. Kim, S. J., Jung, K. H., & Lee, J. H. (2011). Alpha power event-related desynchronization for discrimination of deceptive responses. The International Society for Social Neuroscience Symposium, Shanghai, China, January.
 18. 白岩祐子・荻原ゆかり・唐沢かおり (2011). 人々の法的判断における第三者効果の影響: 裁判と被害者イメージの観点から 日本社会心理学会第 52 回大会, 名古屋大学, 9月19日, 口頭

19. 白岩祐子 (2011). 犯罪被害者の視点取得を促進する教育ゲーム 被害者の視点から広がる社会への新しいパースペクティブ 日本心理学会第75回大会, 日本大学, 9月15日, ワークショップ
20. Shiraiwa, Y. & Karasawa, K. (2011). Development of the Educational Game for Victimology (2): Validation. 16th World Congress International Society for Criminology, Kobe, Japan, 8月7日, ポスター
21. 竹内真純・唐沢かおり (2011). 高齢化の予期がエイジズムに与える効果 日本社会心理学会第52回大会, 名古屋大学, 9月18日, 口頭
22. Watanabe, T., & Karasawa, K. (2012). The impact of mortality salience and group status on self-ingroup overlap. The 13th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology, San Diego, California, January 28, poster
23. 渡辺匠・唐沢かおり (2011). 共通語と大阪方言に対する顕在的・潜在的評価の検討 日本グループ・ダイナミクス学会第58回大会, 昭和女子大学, 8月24日, 口頭
24. 渡辺匠・唐沢かおり (2011). 内集団との関係性が自己防衛に果たす機能: 合意性認知と概念連合の観点から 自己と他者の認知研究会, 東洋大学, 4月23日, 口頭